

ここ地域福祉通信

Vol.48

伊勢社協

検索



<https://ise-shakyo.jp>

伊勢市 福祉生活相談センター ☎21-5712 FAX 21-5555

生活サポートセンターあゆみ(八日市場町13-1)
 (福祉健康センター・1階) ☎63-5224 FAX 27-2412
 地域福祉係 ☎63-5334 FAX 27-2415
 中部支所(八日市場町13-1) ☎27-2425 FAX 27-2412
 東部支所(二見町茶屋456-2) ☎43-5551 FAX 43-4427
 西部支所(小俣町元町536) ☎27-0509 FAX 27-0570
 北部支所(御園町長屋2767) ☎22-6617 FAX 22-6604
 伊勢市ボランティアセンター・げんこころーむ(小本町曾祢538)
 (イオンタウン伊勢ラパーク・1階) ☎63-6370 FAX 65-6121



令和4年度共同募金配分金事業

子どもの居場所シンポジウム

～子ども食堂から始まる地域のつながりの輪～

- と き：3月22日(水)、14:00～16:00(受け付けは13:30～)
- ところ：ハートプラザみその・多目的ホール
- 内 容：第一部 講演 吉田 明弘さん(皇學館大学教育学部 准教授)

第二部 シンポジウム

コーディネーター 吉田 明弘さん(皇學館大学教育学部准教授)

シンポジスト 濱條 幸子さん(伊勢こども食堂☆キラキラ星代表)

青木 貴子さん(おばた児童館食堂(館長))

大西 貞夫さん(株式会社ぎゅーとら SDGs 推進課長)

中村 貴司さん(神都ライオンズクラブ会員委員長)

江原 博喜さん(伊勢市健康福祉部長)



吉田明弘さん



- 申し込み：3月16日(木)までに右の二次元コードよりオンライン申請
 または電話(☎63-5334)・ファクス(FAX 27-2415)・Eメール
 (✉iseshakyo-tiiki@mie.email.ne.jp)で伊勢市社会福祉協議会へ



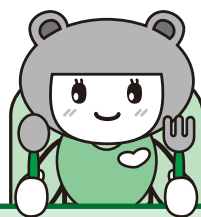
- 参加費：無料 ■定員：150人(先着順)



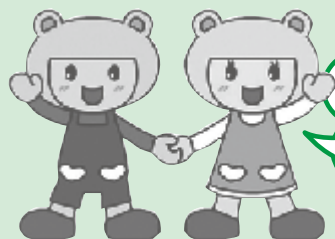
令和5年度共同募金配分金事業

子ども食堂等運営助成金の案内

- 対象：市内に住所を有する地域住民で組織し、活動する団体または、市内で活動する団体
- 助成額：年間上限 10 万円
- 使途：鍋やポットなどの備品、食材料、洗剤などの消耗品、チラシなどの印刷製本、賃借料、保険料 など
- 申請期間：4月1日(出)～9月30日(出)(予算額に達し次第締め切り)
- 申請書類：伊勢市社会福祉協議会のホームページからダウンロード



子ども食堂は、いろんな人が食卓を囲み楽しく食べる“地域の団らんの場”とも言えます。
 地域のつながりを感じ、安心できる居場所であり、人と人のつながりが子どもたちの笑顔を支えています。伊勢市社会福祉協議会では「子どもの居場所をつくりたい」「子ども食堂をしたい」人を応援します！



げんきくん こころちゃん
●伊勢社協マスコットキャラクター

「げんここ地域福祉通信」は、地域福祉情報をお伝えするコーナーです。

社協は**げん**きな
こころ応援します

げん

子どもの笑顔あふれる居場所 ～少子化から笑子化へ～



地域の大人と子どもがつながる機会が減っている今だからこそ子どもたちが笑って過ごせる居場所について一緒に考えてみませんか。



～広がれ！子ども食堂から喜びや幸せの輪～

令和2年10月から、コロナ禍の食支援としてスタートした「辻久留こども食堂」を紹介します。

毎月1回、テントを張って屋外で食事を提供しています。メニューはカレー！大人50食、子ども50食を用意しています。

ほかにも、お米や野菜、レトルト食品などの食品や歯磨きセットにおもちゃなど、たくさんの好意が寄せられ、「辻久留こども食堂」を通して多くの人が子どもたちの食支援に取り組んでいます。



おいしくなあれ、おいしくなあれ、おいしくなあれ

駐車場を提供

岩口建設
有限会社

給食と
辻久留こども食堂の
カレーがおいしい！！

杉原歯科

歯磨きセットを寄付

子どもを取り巻く環境が少しでも良くなるように、自分にできる支援を継続的に行いたいです。

おもちゃを
寄付

コノ花
咲クヤ
(飲食店)

家庭で余った食品で
サポート

フードドライブに取り組んでいます。地域の人に喜んでもらえたらと思い、お声掛けしました。皆さんの「誰かに喜んでほしい」という気持ちに私たちも背中を押されています。

みえ医療福祉
生活協同組合

辻久留こども食堂に
協力してくださっている皆さん

レトロジック
RETROGIC
(ボランティア団体)

コンピューター
ゲームの体験会



地域の人

家庭菜園で
作った野菜を
寄付



食堂オープン準備

辻久留こども食堂と
いえば「カレー」

スタッフの皆さん



左端が森田勇一郎さん、後列右端が森田潤子さん

森田勇一郎さん(辻久留こども食堂代表)

食事を通したコミュニケーションから、笑みがこぼれたり、癒やされたり、勇気やエネルギーをもらったり。参加者同士、笑顔で楽しそうにしている光景が一番うれしいです。今後は、地域のよりどころ、ホットステーションになりたいと思います。

森田潤子さん(辻久留こども食堂スタッフ)

“助けあう”という気持ち、人のつながりを感じます。「家庭菜園で採れました」と届く野菜にその人の気持ちがこもっています。子ども食堂への「人の思い」がありがたいです。